

児童発達支援、放課後等デイサービスの拡充

北但広域療育センター 奈佐事業所開所式

北但広域療育センター(戸牧)の事業拡張に伴い、旧奈佐幼稚園を改修し、3月29日、北但広域療育センター奈佐事業所を開設しました。

北但広域療育センターは、平成20年度に、本市と香美町、新温泉町の1市2町で整備し、

社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団によって管理運営されています。

近年、就学前の子どもを対

象とした児童発達支援と、学童期を対象とした放課後等デイサービスの利用希望者が増加してきたため、放課後等デイサービスを奈佐事業所に移すとともに、定員枠を拡大しました。

奈佐事業所の名称は「らみい(子羊)」。どんな状況にあっても守り、導かれる子どもたちという願いが込められています。



▲銘板を取り付ける中貝市長と水野雄二理事長(右)

誰かの幸せのためにお世話をやく縁結びの醍醐味語る

「縁結び講演会・座談会」開催

市登録制のボランティア仲人「縁むすびさん」の活動促進の一環として3月24日、「縁結び講演会・座談会」を開催しました。縁むすびさんや、縁結びに興味のある人など約60人が、結婚を後押しする際の心得などを学びました。

NPO法人全国地域結婚支援センター代表の板本洋子さんが講師となった講演会では「縁結びは最高のボランティア」と題して「仲人は、独身の

方にとって寄り添う伴走者」「独身の方は、相手への想像力を働かせることで、興味や思いやりが持てる」といった実践的なアドバイスがありました。

また、座談会では3人の縁むすびさんが加わり、縁結び活動の課題などを共有。参加者は「結婚」について多様な考え方を見直す機会になった」「縁結びのパワーをもらえた」などと話していました。

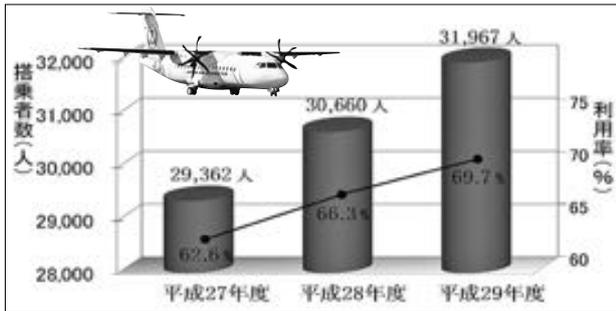


▲座談会で意見交換する縁むすびさんら

但馬空港搭乗者数 過去最高

コロナトリ但馬空港の平成29年度の搭乗者数が、過去最高の約3万2千人に上りました。3年連続で過去最高の記録更新です。また、利用率も69.7%、そして東京乗り継ぎ利用者も1万1211人で過去最高です。

5月7日からは、座席数が12席多い新型機の「ATR42-600」が就航するなど、今後、さらなる利用拡大が期待されます。



<利用者数と利用率の推移(写真は5月から就航するATR42-600型)>

主な市政の動き

【3月】

- 13日・兵庫県北部(たじま)合同企業説明会(大阪市)
- 「ロボットを使ったコミュニケーション教育」公開授業
- 20日・第23回全国芝居小屋会議出石永楽館大会
- 22日・豊岡農業スクール研修結果報告会・修了式
- 23日・シンガポール旅行博「NATAS TRAVEL 2018」出展(25日)
- 27日・豊岡市老人福祉計画第7期介護保険事業計画「策定
- 29日・北但広域療育センター奈佐事業所開所式
- 30日・豊岡市空家等対策計画「策定

【4月】

- 1日・日高消防団消防初出式
- 6日・豊岡農業スクール入校式
- 9日・玄さん元気教室「参加者2千人突破
- ボート日本代表強化合宿(28日(予定))

〜認知度向上と個人旅行者の誘客目指す〜

シンガポール旅行博「NATAS TRAVEL 2018」開催

3月23日から25日まで、シンガポールで開催された、シンガポール最大級の旅行博「NATAS TRAVEL 2018」に、観光庁の地方連携事業の一環として、関西北部の自治体などとして、合同で出展しました。本市のシンガポールへの出展は、昨年引き続き3度目です。各国の政府観光局や旅行会社などが出展ブースを設け、インバウンドに向けたツアー商品などを現地市民にも直接

PRできるこの旅行博。3日間で約8万人が来場し、中でも、本市が入る合同ブースは、約6千人が集まる大人気のブースとなりました。シンガポールの訪日者数は、堅調に増加しています。また、個人旅行者や訪日旅行リピーターが多い市場です。本市は今後も、関西北部の自治体などと連携し、観光地としての認知度向上と個人旅行者のさらなる誘客を目指します。



▲多くの来場者で埋まる関西北部合同ブース

永楽館歌舞伎の演出を手掛ける水口一夫さんが講演

「第23回全国芝居小屋会議出石永楽館大会」開催

3月20日、出石永楽館の復原10周年を記念して「第23回全国芝居小屋会議出石永楽館大会」を、出石庁舎で開催しました。

東は岐阜県下呂市、西は熊本県山鹿市など、全国の芝居小屋の関係者や研究者が参加。基調講演では、永楽館歌舞伎の演出を手掛ける松竹株の水口一夫さんが、歌舞伎の魅力について講演しました。水口

さんは、作品の演出では観客をいかに楽しませ、感動させるかを心掛け、出石永楽館のような空間は創作意欲が高まると話しました。

また、今年「子ども歌舞伎ワークショップ」も予定しており、子どもたちの感受性や助け合う心を育み、さらには、歌舞伎の種まきをしたなど、意気込みを語りました。



▲永楽館歌舞伎の魅力を語る演出家の水口さん

中貝市長の徒然日記 (126)

贈る言葉

「卒業おめでとう。飛んでいけ。豊岡市民一同」。そう書かれたポスターを、今年も一斉に市内に張り出しました。同時に、ネット上に「親から子へのサプライズ卒業式」という動画も流しています。

舞台となったのは豊岡高校です。卒業式の後、体育館に呼び出され、不安そうに入ってくる11人の卒業生。事前にも何も知らされていません。着席すると、学年主任の先生が「豊岡卒業式！」と宣言します。名前を呼ばれ、壇上へ上がると、舞台の袖から保護者が現れ、それぞれの卒業証書が読み上げられます。

母から息子へ。「小さな頃は昔話に出てくるようなかわい、かわいい男の子でした。多くの喜びと幸せをもらいました。生まれてきてくれてありがとう。母さんの手料理が食べたくなかったら、いつでも帰っておいで」
母から娘へ。「小さい頃のあなたは、将来は犬になって日

向でゴロゴロしていたという、スポーツの苦手なおっとりした子でした。これからあなたは豊岡を出ますが、今まで通り、ポジティブに人に感謝を。疲れた時は帰ってきたらいい。ね？」

父から息子へ。「遠距離通学。学校の後も塾に行き、疲れて家に帰ってから二人の弟のことを気にかけてくれました。家族みんな、感謝しています。ありがとう」

親子は涙が止まりません。ほくの場合。卒業式で子どもが決然と席を立ち、出口に向かって背中を見せた瞬間、心に浮かんだのは「ああ、行ってしまう」でした。

映像の最後に流れるメッセージです。「コウノトリのように自由にはばたくときがやってきた。どこにだって行ける。なんにでもなれる。あなたが帰ってきたくなるようなまちを目指して。私たちもこのまちで頑張ります。卒業おめでとう、飛んでいけ」
故郷は、いつまでもこの地で故郷であり続けたいと願って、この映像を制作しました。

2~3

今月のイチオシ

4~5

市政ニュース

6~29

豊岡 クローズアップ

30~37

くらしの情報

38~39

保健行事

40~41

図書館・つどいの広場

42~43

主な相談・主な行事